

ラダチがあった。この農村地帯の住民が抱く強い物質志向と、貧困という現実が、結果的に娘を性産業で働かせる以外の選択肢を少なくしているようなのである。われわれは、これ以上の質問を続けることを躊躇した。

【DEP施設の子供達】



②Empower in Mae Sai

Empower というのは、Education Means Protection Of Women Engaged in Re-creation の略である。あえて日本語に訳すと、「教育が売春をしている女性たちを改革する」とでもなるのだろうか。ここは売春をしている女性の人権を守ることを主たる目的として活動しているNGOの組織である。タイには、Empower がここチェンライのメイサイ以外にも、バンコクとチェンマイにあって活動を続けているそうである。ちなみに、ここメイサイの組織のスタッフは8名である。

この組織は、売春は職業選択の自由の一つであって、そのことが悪いこととはしていない。ここでは、売春をしている女性の権利を守り、彼女らを援助しサポートしてあげるための活動を積極的に行なっている。具体的には、避妊の方法や健康に対する知識、さらに性病やHIVに対する予防法や相談を受けると同時に、タイ語、英語、初等教育、コンピューターの操作法などを教えているのである。ここに来る女性は任意である。誰も強制はしない。もちろん授業料などは無料である。大して宣伝もしていない様であるが、それでも彼女らの口コミなどで、かなり多くの人がこの施設を利用しているとのことであった。

リン・リー・リム氏の著書⁶⁾によると、この種の活動は比較的最近になって始められたもので、成人のセックス・ワーカーに対しては、売春は職業の一つであって犯罪ではないという主張があるそうである。われわれが訪れた組織も、この考え方に基づくものと思われる。しかし、タイの場合は、彼女らが本当に自分の意思で売春という「職業」を選んだのだろうか、また未成年の売春婦に対するケアはどうなるのか、というような疑問がわく。それでも、この組織で救われている女性が多いことも事実である。この問題の複雑さを深刻に感じた。

③職業訓練センター

この施設は、タイ国の公共福祉局に所属する国立の教育施設である。バンコク郊外の河の大きな中州に位置している。1960年に売春防止法が制定された後に、年齢に関係なくこの法律に違反した女性の教育の場として設立された。その後1996年に、売買春を禁ずる法律が制定されると同時に、この施設は18歳以下の女兒を対象とした矯正教育施設へと発展し現在に至っている。

現在は157名の女兒が収容されているが、彼女らの経歴は様々である。大多数は売買春禁止法か売春防止法違反か、麻薬等の薬物乱用の罪で収容されたものである。その他にも、だまされて強制的に売春させられたもの、性暴力の被害者、ストリート・チルドレンなどがいる。

ここでは、教育を受けられなかった子どもたちに公式に小学校の2～4年程度の教育をすると同時に、それ以上の教育もする。優秀な子どもは文部省の認定を受けて高校に進学する場合もあるそうだ。

またこの施設は、職業教育にも力を入れている。理容、美容、機織り、ハンドクラフトなどなどいろいろな技術教育を行なっている。この施設を出所した後も、美容などの職業指導を受けるために自発的に習いに来ているものもいるそうである。この施設には最大で2年半まで入れることになっているが、多くはその前に家に帰って親と暮らすようになるそうだ。

ここでのインタビューで、女性の教官は、この施設に来る最近の若い女の子の考え方や行動傾向について次のように話していた。

第一に、女兒たちの性病は少なくなってきたが、精神的なダメージが大きくなってきているそうである。多分このことは、最近の家庭の崩壊現象と関係しているだろうとのことである。

第二に、タイ国内におけるいわゆるトラフィッキングが増えてきているとのことである。女兒たちは、セックス・ワーカーとして、またメイドとして売られるのだそうだ。メイサイでの調査結果から考えると、多分、親が娘を「前借